

14. 驅瘀血劑

驅瘀血劑とは、蓄血・瘀血の証の治療に用いられる方劑をいう。

瘀血も蓄血も、ともに静脈系の鬱血状態あるいは微小循環障害の病態に相当する。

瘀血は、外傷・炎症・手術侵襲・出産・月経異常・免疫異常・血管系の形態異常・寒冷・熱症・乾燥等種々の原因によって生じ、これがまた新たな原因となってさまざまな病態や症状を引き起こす。

蓄血とは、古典では傷寒六經の經過中に邪が下焦に伝わり、血と相搏ち、身熱・譫妄・發狂・煩躁・少腹急結・小便自利・脈沈実等の症状を現すものと定義されているが、広義の瘀血の範疇に含まれる証である。

瘀血・蓄血があると、月経異常・少腹滿・下腹部腫塊・血絡・細絡・脈沈澁、あるいは悪血内留による疼痛などさまざまな症状を呈する。

活血驅瘀劑

桃核承氣湯，桂枝茯苓丸。

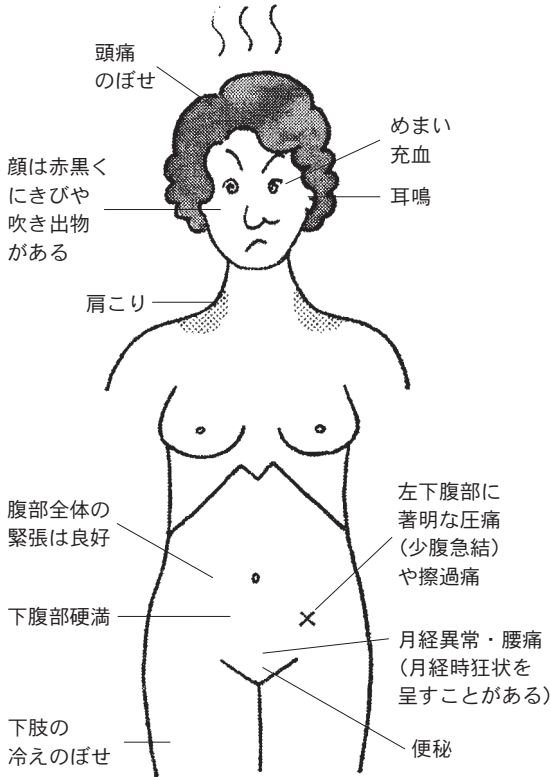
順氣通絡劑

通導散。

通陽行瘀劑

治打撲一方。

とうかくじょうきとう
桃核承気湯 (傷寒論)



方意

病邪が太陽経を伝って足の太陽経の腑である膀胱に入り、血と熱が結合して、下焦蓄血の証を現すものを治す実証向きの駆瘀血剤である。顔色が赤黒く、のぼせと瘀血症状の強い者に用いる。

月経時などに精神異常や異常な言動を現す婦人は本方の証が多い。

病位は太陽の腑証（膀胱の血分）。

脈は沈実、あるいは瀦。
 舌は乾燥し、黄苔をみる。

診断のポイント

- ① 実証の瘀血・月経異常
- ② 左下腹部の圧痛過敏（少腹急結）
- ③ のぼせと月経時の精神不安定

原典

太陽病解サズ、熱膀胱ニ結ビ、其ノ人狂ノ如ク、血自ラ下ル、下ル者ハ愈ユ。其ノ外解サザル者ハ尚未ダ攻ムベカラズ、当ニ先ズ其ノ外ヲ解スベシ。外解シ已リテ但ダ少腹急結スル者ハ乃チ之ヲ攻ムベシ、桃核承気湯ガ宜シ。〔『傷寒論』太陽病中篇〕

処方

トウニン（桃仁）……………5.0 g	カンゾウ（甘草）……………1.5 g
ケイシ（桂枝）……………4.0 g	無水ボウショウ（芒硝）……………2.0 g
ダイオウ（大黄）……………3.0 g	